

# 宮農だより

金沢営農協議会  
J A 金沢中央  
石川県農業共済組合

## 6月のポイント ～高品質金沢産米づくり運動10の推進技術～

- 中干しは、田植え1か月後から実施 ○中干し期間は、コシヒカリで約1か月間
- 畦畔・農道等の除草は5～6月にかけて実施し、7月上旬までに追加除草
- 高温登熟に対応した施肥体系

## 今後の水管理

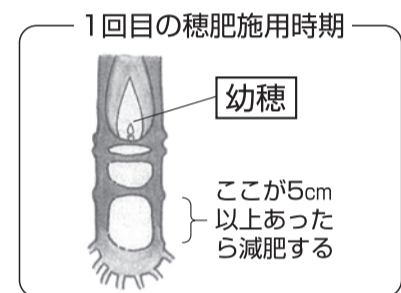
ゆめみづほ（早生品種）は、稲が最も水分を必要とする穂肥時期（幼穂形成期）～出穂後3週間になるので、常に土壤水分を保つように（飽水管理）、こまめに通水する。通水は可能な限り、夜間に通水し、根の活力低下を防ぐとともに乳白粒発生防止に努める。

コシヒカリ（中生品種）は、中干しを7月5日頃まで継続する。中干しを実施していない圃場は、軽く田干しを行ったのち、中干しを実施する。

## ゆめみづほの穂肥施用

### ポイント

- ① 1回目の穂肥は出穂23日前に適量施用する。  
1回目の穂肥施用時期の確認 → 幼穂長：1～2ミリ 葉色：4.0～4.2（葉色板）
- ② 施用時期は幼穂を確認して1回目を規定量、遅れないように注意する。
- ③ 2回目の穂肥は遅くとも出穂の1週間前までに施用する。



**出穂予想日 ゆめみづほ・・・7月17日頃**

（地域や圃場、田植日によって出穂予想日は前後します。）

### 【穂肥施用時期の目安と施肥量】（10a当たり）

区分 品種	肥料名	1 回 目		2 回 目	
		施肥時期	施肥量	施肥時期	施肥量
ゆめみづほ	BB有機入追肥 526号(15-2-6)	6月24日頃	20kg	7月7日頃	25kg

- ・市街地では上記の2～3日前を施用の目安にする。
  - ・乳白粒等の発生しやすい圃場で、生育が劣る場合には、2回目の穂肥施肥の際に5kg/10a程度増量する。
  - ・登熟期間の高温が予想される場合には、2回目の穂肥施肥の際に5kg/10a程度増量する。
- ※スリム早生一発くん使用のほ場で追加穂肥が必要な場合は、穂肥2回目（7月7日頃）の時期を目安に実施する。

◆ コシヒカリの穂肥施用時期は次回の宮農だより第5号でお知らせします。

中干し後は、止め水せずに、こまめに通水を！

J A 金沢中央のホームページでも宮農だよりを掲載しております。  
「J A 金沢中央」で検索して下さい。

# 早生品種の病害虫防除

「ゆめみづほ」は茎数が多く、紋枯病にかかりやすい品種です。常発田では適期に防除して下さい。

## ◆紋枯病常発田◆

紋枯病が毎年発生する圃場では、予防剤による防除が重要です。

薬剤名	防除時期	対象病害虫	散布量
リンバー粒剤	7月3～7日頃 (出穂前14～10日、収穫30日前まで)	紋枯病	3kg/10a

イモチエースクラブ粒剤を散布する圃場は、リンバー粒剤を散布する必要はありません。

## ◆稲こうじ病◆

過去に稲こうじ病の発生した圃場は発生翌年度から3年間継続して散布して下さい。

薬剤名	防除時期	対象病害虫	散布量
Zボルドー粉剤DL	6月27日～7月7日頃 (出穂前20～10日)	稲こうじ病	4kg/10a
モンガリット粒剤	7月3日頃 (出穂14日前、収穫45日前まで)	紋枯病、 稲こうじ病	3～4kg/10a

注意1：Zボルドー粉剤DLは、薬害防止のため出穂10日前までに散布すること。

散布後7日間は落水かけ流しをしないこと。

注意2：モンガリット粒剤を散布した圃場は散布後45日間は、刈取りが出来ませんので、刈取日に注意して下さい。

## ◆早生品種の基幹防除（出穂前）

### 〈粉剤体系〉

薬剤名	①ビームトレモンセレン粉剤DL
防除時期	7月10～14日頃 (出穂前7～3日、収穫21日前まで)
対象病害虫	いもち病・紋枯病・穂枯れ・カメムシ ウンカ・イネツトムシ・コブノメイガ ツマグロヨコバイ
散布量	4kg/10a



②ラブサイドスタークル粉剤DL ③スタークル粉剤DL
-------------------------------

### 〈粒剤体系〉市街地または近隣に他作物があり 粉剤散布できない圃場

薬剤名	①イモチエースクラブ粒剤
防除時期	7月3～7日頃 (出穂前14～10日、収穫35日前まで) *使用回数は1回
対象病害虫	紋枯病・いもち病・穂枯れ・カメムシ ウンカ・墨黒穂病・変色米
散布量	3kg/10a



②スタークル粒剤またはスタークル豆つぶ
---------------------

(2回目以降の防除については、次回の営農だより第5号に掲載します)

- ◆暖冬の影響でカメムシ類の発生が例年に比べて増加することが予想されます。  
カメムシの生息密度を下げるため、こまめに畦畔や雑種地の除草をしましょう。
- ◆カメムシ被害の多い市街地などで、粉剤散布ができない圃場では、粒剤体系で防除を行って下さい。  
スタークル粒剤またはスタークル豆つぶは出穂後7日～10日に散布して下さい。
- ◆斑点米防止には、地域での一斉防除（集落一斉防除など）が有効です。  
地域、集落ごとに協力して斑点米の発生を防ぎ、きれいな金沢産米をつくりましょう。
- ◆農道や畦畔の除草は7月上旬までに行ってください。

### ◎金沢管内の生育調査結果（5月28日調査）

- ・草丈は、ゆめみづほ・コシヒカリで平年並みである。
- ・茎数は、ゆめみづほ・コシヒカリで平年よりやや多い。
- ・生育は、ゆめみづほで平年並、コシヒカリで平年より1日程度遅くなっている。

### ◎病害虫発生予報（5月21日発表）

- ・カメムシの発生量は、やや多くなると予想されている。

※農薬は、飛散防止に気を付けて散布しましょう。

栽培履歴を記帳しましょう！